

「令和4年度全国学力・学習状況調査」の結果について

《基本的な考え方》

文部科学省が実施する本調査は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」と位置づけられています。これらをふまえて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

- 子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ること、学習意欲を高め、自ら目標をもって今後の学習の改善や励みになる。
- 学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につながる。

《調査結果の取り扱い》

今年度も全国学力・学習状況調査の結果と分析をお知らせします。

- ◇本調査により測定できるのは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。
- ◇学校は、「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

《お願い》

- 学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちや兄弟姉妹と比較することは、意欲を低下させる場合があります。今回の結果からお子様の伸びや課題を知り、まずはお子様の良いところを褒めてください。その上で、課題について頑張って克服できるよう励ましてあげてください。そのことがお子様の学習意欲を高めることにつながります。
- 学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にさせていただきまうようよろしくお願いいたします。
- 調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども及び、保護者の方にのみお知らせしているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないように、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。

## 学力の概況

## 国語

概要

思考・判断・表現の領域の中で、「書くこと」に関する問題の正答率が、大阪府平均・全国平均、いずれと比較してもやや高い結果となっている。(問題例 2三 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く力をみる問題)

この結果には、これまでの学習の積み重ねと、前向きに学習に取り組む生徒が多い現3年生の特徴が表れていると思われる。論理的に書く力を身につけるためには、じっくり考える時間と繰り返しの練習が必要である。その時間を煩わしく感じ、「書くこと」を避けがちになってしまうことも多い。しかし、現3年生には一度書いた文章に満足して終わらせるのではなく、前向きに推敲したり、自主的に作文の再記述に挑戦したりする生徒が多い。

諦めずに苦手なことに向き合ったり、面倒くさがらずに時間のかかることに取り組む姿勢が、確かな学力を身につけるために欠かせないということを改めて感じる結果となった。

特に成果が見られた問題例

4二 文字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する問題。(書写の内容で漢字の行書の読みやすい書き方についての理解をみる問題)

文字を書く際には各文字の中心をそろえて書くことで、読みやすく整った文になることを1・2年の書写の時間を通して学んできた。楷書・行書どちらにも当てはまる知識で、日々の生活にも生かせる技術なので、確かな定着につながったのだと思われる。

特に課題が見られた問題例

4一 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する。(行書の特徴の理解をみる問題)

誤答を含めた解答を見ていると、行書の特徴自体は知識として習得できていると思われる。しかし、その特徴が、今回の問題のどの部分にあてはまるのかといった、詳細な理解にまでつながっていないのではないかと考えられる。原因としては1年時の楷書の学習のように、毛筆で行書を書く機会をとれなかったことと、生活の中で直筆で書くという機会が減ったことなどが考えられる。

# 数学

## 概要

学校全体で比較すると、全国や大阪平均より正答率が高かった。問題別にみても、多くの問題で全国や大阪平均より正答率が高く、1・2年の内容が定着し理解している生徒が多いと感じる。

### 特に成果が見られた問題例

$\boxed{2}$ ,  $\boxed{4}$ ,  $\boxed{6}$ (3),  $\boxed{7}$ (1),  $\boxed{8}$ (2)

基本的な計算問題や、これまでの授業で取り組んだことがある問題は、特に正答率がよかった。

分野でいうと数と式の正答率が高い。また、思考・判断・表現の観点の問題や、解答形式でいうと記述式の正答率もかなり高く、授業の中でも自分の考えをいかしたり、友達に教えたりする中で力がついてきていると感じる。

### 特に課題が見られた問題例

$\boxed{6}$ (2)(3),  $\boxed{8}$ (2),  $\boxed{9}$ (2)

無答率が高かった問題である。

無答率が高い問題に共通する点は、記述式であり、かつ説明する問題がほとんどである。

また、問題の中でも後半の小問が多く、問題文をしっかりと読み取れなかったり、説明すべきことを読み取れなかったことが考えられる。

授業の中でも、様々な問題に取り組んだり、授業の中で扱った問いについてさらに進んだ設定をしたり、ジャンプの課題（進んだ問題）にも取り組んできたが、今後も演習が必要である。

あきらめずに問題に取り組み、自分の言葉で説明する・表現する力を意識してつけさせたい。

# 理科

## 概要

知識・理解に関する問題の7項目中6項目の正解率が、大阪府平均と全国平均のどちらと比較しても高い結果になっている。

本校の3年生は、授業ノートを自分なりにアレンジしたり、復習の内容をつけ足したり、授業ノートとは別に自学ノートを使うなど、非常に学習意欲が高い生徒が多いという特徴が表れていると思われる。

しかし、思考・判断・表現に関する問題については全国平均と比較してもほぼ変わらない結果だったので、熟考する必要がある問題については今後の対策が必要であると感じる。

また、正解率以外では、「無回答」や「選択問題にもかかわらずそれ以外の解答をしている」という部分の割合が大阪府平均や全国平均に比べると高いので、こちらも対策を考えたい。

### 特に成果が見られた問題例

5 (1・2) や 6 (3) の問題が、特に全国平均と比較して高い結果になっている。

「ばねと力の関係性」と「地層の傾き」に関する問題であるが、ともに1年生のときに学習した内容であることから、もともと生徒たちが勉強熱心であることと、理科は復習しなければ実力テストで結果を出すことはできないと伝え続けた成果が出ているように感じる。

### 特に課題が見られた問題例

2 (2) や 4 (2) の問題が、特に全国平均と比較して低い結果になっている。

「気圧・気温・湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連づけて適切な天気図を選択する問題」と「脊椎動物の骨格の共通点からカラスの関節とヒトやカエルの関節を比較する問題」であるが、やはりどちらも思考・判断・表現に関する問題であり、熟考する必要がある問題である。

3年生の学習意欲は高いものの、学習内容が独立してしまっていてそれらをつなげて考えることができていないように感じるので、今後の課題としたい。

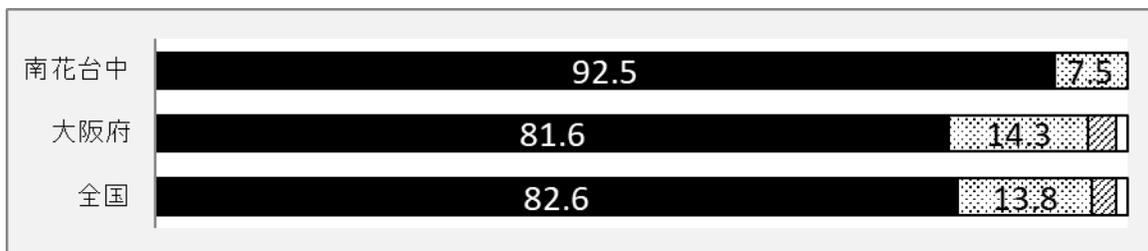
## 学習状況の概況

### 生徒アンケートより

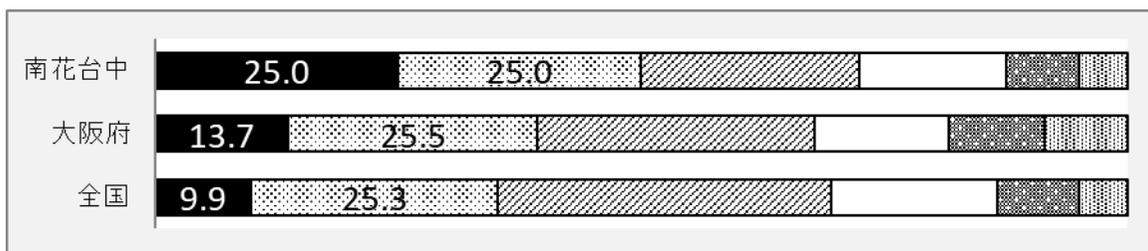
全国や大阪府平均と比較し本校3年生の特徴（調査実施時点）と考えられる項目についてまとめました。

グラフは左から「当てはまる／どちらかと言えば、当てはまる／どちらかと言えば、当てはまらない／当てはまらない」または「そう思う／どちらかと言えば、そう思う／どちらかと言えば、そう思わない／そう思わない」の順に表しています。

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

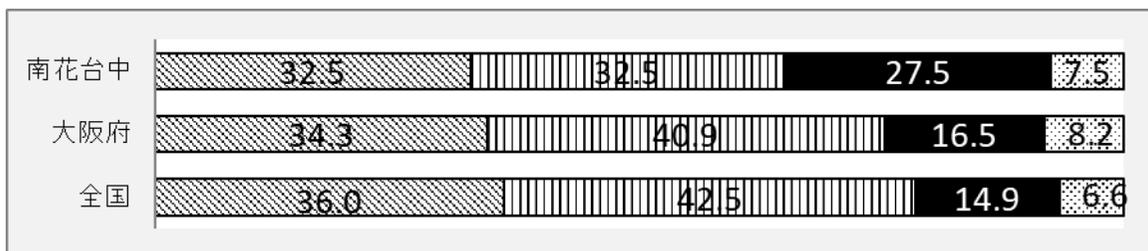


学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）※グラフは左から3時間以上 2位時間以上 1時間以上 30分以上 10分以上それ以下になっています。

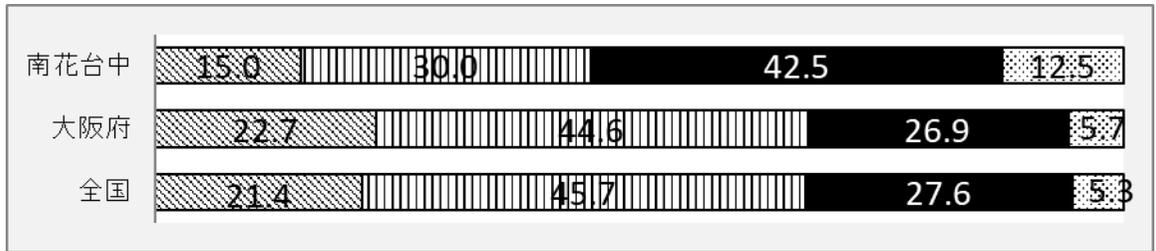


いじめに対しては、肯定的回答が100%であり、また平日の学習時間は毎日1時間以上学校以外で勉強をしています。土日おいても同じような値が出ており、正義感を持ち勤勉なこの学年の生徒の特徴が出ています。

自分には、よいところがあると思いますか



## 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか



まじめで正義感がある反面、自己評価が低い傾向があります。実際にはこつこつ頑張り他者への大きく貢献をしているがそれを前面に出すことが苦手な部分が見受けられます。

### 調査結果を受けて

#### 学校が重点的に取り組んでいくこと

##### ①「つながりあい、学び合う授業」を継続して進めていきます。

- ・グループ学習、ペア学習、協働学習を積極的に取り入れることで自身の成長の実感を高めます。
- ・発表の機会を増やし、成功を体験することで自尊感情を育てます。また、相手に伝える能力を高めたり、相手の意見を尊重する力を伸ばすことでコミュニケーション能力や自己有用感を高めます。
- ・習熟別指導などを通しひとりひとりを支援し、自らが見通しをもって学習に取り組ぶよう課題の与え方を工夫し、達成感を味わえるようにします。

##### ②行事を充実させ、生徒の個々の力を伸ばします。

- ・体育大会やダイナミックフェスティバル、学年行事で生徒同士が意見を出し合い企画運営をする体験から、自分たちの力でやり遂げたという経験、達成感や誰かのために役立つことで自分自身が役立っているという自己有用感や自尊感情を高めます。

#### 生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

##### ① 計画的な家庭での学習を継続しよう。

計画的に課題に取り組む続けることは力を伸ばし大きな自信になります。

##### ② 積極的に物事に取り組みましょう。

行事や学習に取り組む姿は十分に力が発揮されています。自分に自信を持ち、一歩前へでる気持ちを持ちましょう。

#### 保護者のみなさまに協力してほしいこと

##### ① 家庭学習を計画的に行うよう支援をお願いします。また子ども達の携帯の使用などを規律あるものになるようにしてあげてください。

##### ② 家庭では出来るだけ子どものできたことを評価し、はげますようお願いします。